

米を分解すると
八十八ね

編集後記 美しき人になりたく候

日本人は、古くから「八」という数字を縁起のよい数字として親しんできたといえます。

今年は**令和八年八月八日**。なんとも縁起のよい日ですね。

先日、88歳になる父の米寿祝いを兼ねて、宮崎の実家に帰省しました。胸に「88」と書かれた黄色いポロシャツをプレゼントすると、父は「豆腐屋をしていた頃、豆腐一丁が88円だったから、スーパーのパートさんたちに『パパさん』と呼ばれていたんだよ」と、懐かしそうに笑って話してくれました。(^_^)

表紙の東大寺の写真とともに紹介した、奈良を愛した**会津八一（1881—1956）**の名前にも「八」があります。会津八一は、歌人・書家・東洋美術史学者として有名ですが、熱心な教育者でもありました。早稲田中学校で英語と修身（道徳）を教えていた際は、型破りな全人格的教育を行い、生徒たちから慕われていたそうです。修身の試験では、「母に捧げる言葉」という題を出し、全員に満点をつけたといえます。

その八一が、後年、知人に宛てた手紙には、こんな言葉があったそうです。

「**美しき人になりたく候**」

誕生日が
8月1日
なのよ



先日、ロータリークラブで活動されている経営者の方が、こんな話をしてくれました。

「**人格者という人は本当にいるよね。そんな経営者のまわりには、いい社員が集まっているし、経営的にもいい会社なんだ。利益はそんな会社からついてくるんだね。**」

なるほど、僕もそんな「美しき人」になりたいものです。(^o^)



東大寺の南大門では、高さ 8 メートルを超える檜の寄せ木造りの**阿吽（あうん）**一對の**仁王像（金剛力士像）**が、圧倒的な迫力で迎えてくれます。1203 年の南大門の完成に合わせ、**わずか 69 日**で運慶一門によって造られました。重機も電動工具もない時代。そこには、**冷静なチームワークと信頼関係**があったと想像できます。それぞれ熱い気持ちを持った職人の強みや個性が、パズルのピースのように調和し、一つの目的へ向かっていく。その情景は、オーケストラのように、きっと美しかったのではないのでしょうか。

先日の宮崎で、息子が運転するレンタカーの助手席に乗ったときの話です。

国道を走っていると、前の軽自動車突然ハザードランプを点滅させました。

停車かと思いきや止まらず、今度は左折のウインカーを出しますが、曲がりません。

「おじいちゃんなのかな？」 「道に迷ってるんじゃない？」 (_ _)

車内で勝手な推理大会をしながら、「危ないから車間距離を空けておこう」と、その車の後ろをそのまま 20 分近く走った頃です。後部座席の姪っ子が発した声に、車内が静まり返りました。

「**〇〇君（息子の名前）、左折のウインカー出さばなし！**」 (@o@;)

前の運転手さんは、ハザードランプやウインカーを駆使して一生懸命に「後ろの車、ウインカー忘れてますよ！」と教えてくれていたのです。僕たちは、前の車に向かって口々に「ごめんなさい」と謝りました。

そしてふと気がつけば、うちの車の後ろの車も、ずいぶん車間距離を取って走っていました。

あの日、僕たちは前の車を見て「困った運転手」だと思い込んでいました。

でも、でも、本当に落ち着くべきだったのは、僕たちのほうだったのです。(> _ <)



実は、先ほどの会津八一の言葉には、その前にもう一言あります。

「**落ち着いて、美しき人になりたく候**」

人のことをあれこれ言う前に、まずは「落ち着いて」自分の足元を見つめる。

そんな姿勢があつてこそ、「美しき人」に近づけるのかもしれない。

S N S 全盛の現代は、素早く情報を得たり、問題を解決したりできる便利な時代です。一方で、偽情報が広まったり、個人情報や機密情報が漏えいしたりする危険もあります。さらに S N S は「自己顕示欲」や「承認欲求」といったエゴを増幅させ、ときには人間の醜い側面を可視化させます。

今の時代こそ、落ち着いて向き合わなければ、「美しき人」には近づけないのかもしれない。

僕も、心のどこかに「落ち着いて、美しき人になりたく候」という言葉を置いておきたいと思います。(^-^) ☆



アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com



まずは落ち着け！